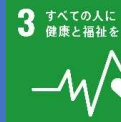


第2期 滋賀県国民健康保険保健事業実施計画（概要版）



滋賀県国民健康保険保健事業実施計画(以下「データヘルス計画」という。)

目指す姿

誰もが自分らしく幸せを感じられる「健康しが」の実現
～データ活用による生活習慣病の予防を通じた健康寿命の延伸～

計画期間 令和6年度(2024年度)
～令和11年度(2029年度)

健康に関する課題

医療費適正化・
高齢者に対する課題

- A 心疾患 心疾患による死亡は死因の第2位であり、要介護者の心臓病の有病率も高い
- B 脳血管疾患 死亡率は低下しているものの、要介護認定者の原因疾患1位である
- C 糖尿病性腎症 人工透析患者のうち糖尿病性腎症が原因となっている者が多く、糖尿病有病者の割合も増加している
- D 悪性新生物(がん) 悪性新生物(がん)による死亡は死因の第1位であり、医療費も入院・外来とも最も多い
- E 後発医薬品 後発医薬品は供給不足となっているが、安心して後発医薬品を使用できる環境整備が必要
- F 医薬品の適正使用 重複頻回訪問指導を19市町で実施しているが、高齢者の多剤投与の観点も含めた対策が必要
- G フレイル予防(骨折対策) 高齢化に伴い、高齢者の骨折の件数等の増加が見込まれるため、国保世代からのフレイル対策が必要

データヘルス計画全体における目標

1 県健康課題に関する目標

項目	目標	計画策定時	第2期計画
		R5(2023)	目標R11(2029)
A	心疾患の年齢調整死亡率の減少 (人口10万対)	男181.5(R3) 女106.9(R3)	減少
B	脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少 (人口10万対)	男73.7(R3) 女49.6(R3)	減少
C	糖尿病性腎症による年間新規透析導入者数の減少	165人(R3)	増加の抑制 (165人以下)
	糖尿病有病者の割合の減少	12.1%(R3)	増加の抑制
	治療継続者の割合の増加	61.6%(R3)	75%
D	がん検診受診率の向上	胃がん40.5%、肺がん47.6%、大腸がん44.8%、乳がん47.2%、子宮頸がん40.7%(R4)	60%
	がん検診精密検査受診率の向上	胃がん88.8%、肺がん95.7%、大腸がん87.7%、乳がん96.9%、子宮頸がん95.8%(R2)	100%

2 県・市町国保における共通目標

項目	目標	計画策定時	第2期計画
		R5(2023)	目標R11(2029)
A	特定健診受診率	40.1%(R4)	60%以上
	40歳代健診受診率	22.6%(R4)	25%以上
	3年連続未受診者割合	42.2%(R4)	40%以下
	特定健診未受診者かつ医療機関受診なしの者の割合	35.7%(R4)	35%以下
B	特定保健指導実施率	33.9%(R4)	60%以上
C	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	20.8%(R4)	26%以上
	HbA1c8.0%以上の者の割合	1.2%(R4)	1.0%以下
	高血糖者の割合(HbA1c6.5%以上の者の割合)	9.2%(R4)	9.2%以下
	HbA1c6.5%以上の者のうち、糖尿病のレセプトがない者の割合	12.9%(R4)	12.9%以下
	血圧が保健指導判定値以上の者の割合	51.8%(R4)	44%以下

データヘルス計画における保健事業

- 特定健診受診率向上対策
- 特定保健指導実施率向上対策
- 糖尿病性腎症重症化予防対策
- がん検診の受診率向上対策
- 歯および口腔の健康づくり
- 後発医薬品、バイオ後続品の使用促進
- 重複・頻回受診者、重複服薬者、多剤投与者訪問指導事業
- フレイル予防対策
- 予防・健康づくりに対する主体的な取組の支援
- 保健事業従事者の人材育成と連携強化
- 保険者協議会（被用者保険）との連携
- 健康課題や医療費に関するデータ分析、デジタル化対策（オンライン資格確認、AI活用等）

3 医療費適正化・高齢者に関する目標

項目	目標	計画策定時	第3期計画
		R5(2023)	目標R11(2029)
E	後発医薬品等の使用割合の増加(維持)	81.4%(R4)	80%以上を維持
F	医薬品の適正使用の推進	重複・頻回受診者、重複服薬者、多剤投与者への訪問指導等の実施	19市町(R4)
G	フレイル予防対策の推進	国保世代のフレイル予防対策に取り組む市町の数	19市町で実施

○県……市町と一体となってデータヘルス計画を推進(広域的な事業の推進や、保険者間の連携等により市町を支援)

○市町……国保の保険者として行う保健事業について(データ活用とPDCAサイクルにより効果的・効率的に推進)